假名
反古

一休草紙

十二編

柳煙亭種久作
一勇斎國芳画

へ 13
3738
7

芝神明前
和泉屋市兵衛板

門 へ13
3738
巻 7

仮名反古一休法話

十三編上冊

柳烟亭種久作
一恵斎芳幾画

東京 鳥屋市蔵

巫山雲雨夢中神。君子猶迷況小人。狂雲集。

休師が悟道の詩句。骸骨のうを挑ふて花見哉の句。

彼鬼貫がわふの眼ゐ無常を感ぜ哉。

一世の閑喩いづれも生者必滅の理めして。

浮世の色と酒月雪花乃三ツ蒲團。抱の自上ゐて鬼角

油と仙女香の匂ひ。鼻ゐび面壁の達尊ゐ

塵禪の膝に山刑。雪の膚と緋の湯具。紅色ゐい久米仙人も

矛ろ通ゐ失ふ。ト自己ゐ惰落し。こゐが勝手の方

菊丸が戀と無常の両面合鏡の

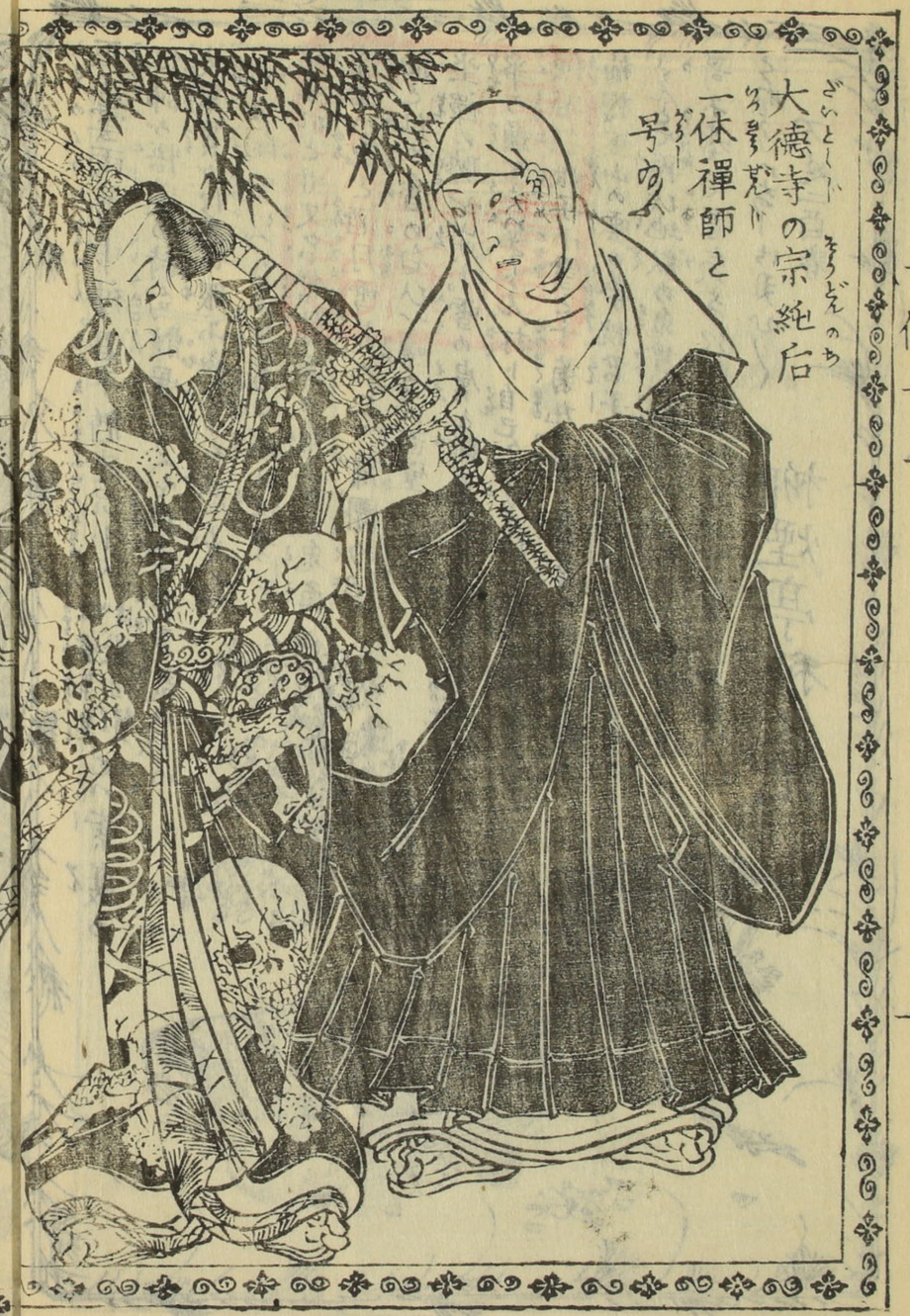
梅櫻巫山の雲の夢。恍君子の迷が小人の無明の酔とさゐ

再び地獄の鬼貫が骸骨の句因ある休師ゐ道

哥ゐ基を悪気ゐ此者ゐ出ろうべ。宍賢同出ゐ

万延二酉春

柳煙亭種久記


大徳寺の宗純后
一休禅師と
号す

禿美留女
侠客
野晒
悟助

高須里名妓
地獄太夫
新造
針山
香久花
乖九

千

雲

慶應二寅歳新春刊行

女郎花五色石臺

初編より十編迄大尾

曲亭馬琴作

一陽齋豊國画

黄金水大盞盃

十七編 十八編

爲永春水作

一壽齋國貞画

滑稽道中膝栗毛

十編 十一編

十返舍一九作

一筆庵英泉画

風俗淺間嶽

十四編 十五編

柳下亭種員作

一壽齋國貞画

忠臣貞婦 いろは文庫

九編 十編

柳煙亭種久作

一壽齋國貞画

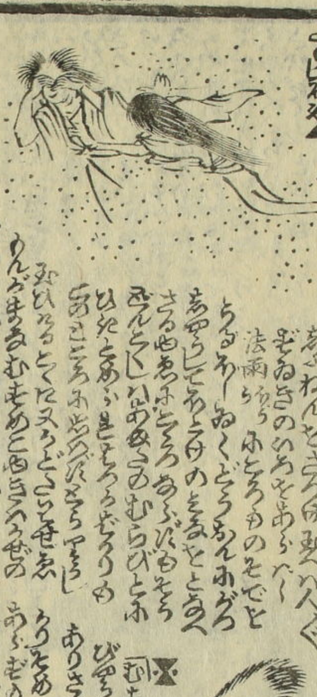
假名反古 休草紙

十六編 十七編

同作同画

芝神明前 甘泉堂梓

種久作 國芳画



一体之字之

十三編下

三

門

雪
鬼

鬼

慶應二寅歳孟陽發兌

兒雷也豪傑譚 四十三編 柳亭種員作 四十四編一壽齋國貞画

新編金瓶梅 初編ヶ曲亭馬琴作 十編迄 大尾 一陽齋豊國画

不思議塚小説櫻 七編八編 種清作 國貞画

櫻蔭花関守 三編迄 大尾 種久作 芳虎画

小女郎蜘蛛怨苧環 初編ヨリ 三編迄 大尾 曲亭馬琴作 一勇斎玉芳画

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

十四編上

柳煙亭種久作
一惠齋芳幾畫

一休双岐十四編上巻

甘泉堂藏

浮世又平は越前の産にして時世人物を畫て
こゝ浮世の名を負ふ山東翁の奇跡考に
見えたり廿八鬼は角を斯巻に大津の地名を載
まぐれ其所ふ名高き又平と牛車さへ
未だ見ぬ鳥渡その名を假借ひ
縁の色の

藤娘塗土笠おやまを
題画に名画の奇特を挙れども彼又平に
此ぶ色べ實に燈提と釣鐘弁慶矢の根五郎の矢
鋏ぬど刷出る趣向もあられば只大津画のむかしを
たのび牛車ゝめいゝ遅き筆を取て記そのゝ
柳煙亭種久

一休道歌
空即是色の
心を問へば
若う嘉こう
花のご姿に
みちふおおい
ちれあるの玉
丈の女童
千菊丸

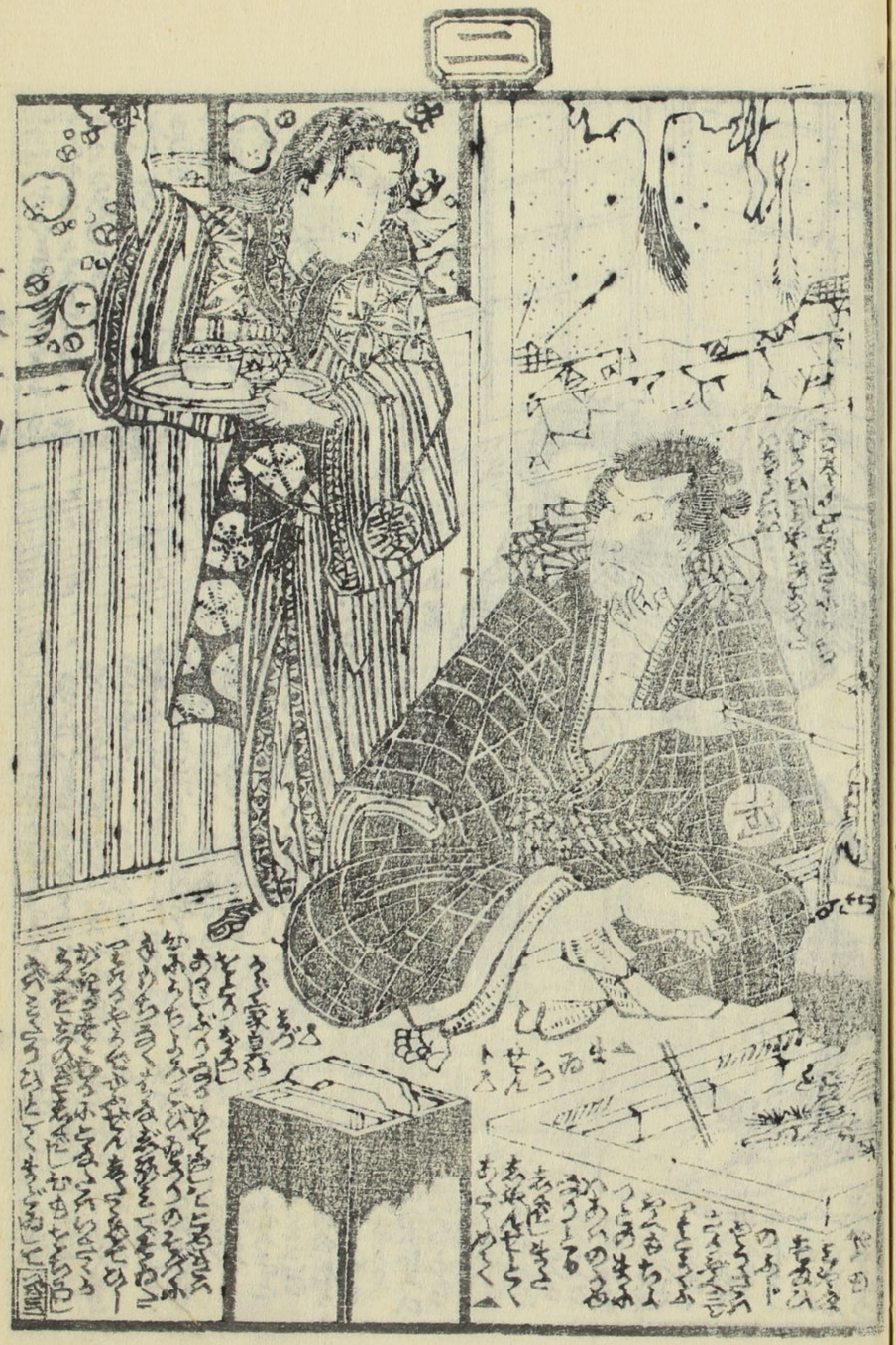
淫婦
露虫の
死霊

高須の名妓地獄

一休禁制
色即是空の
ことわりをしへ
むさうえん
色香せとめよ
散もそそ
ひあくてかく美い
末はかり
同じ里の侠客
野晒悟助

十二月の内
月

雪



前一丁と此図い汨九郎夫婦が夢ゆめ一形容とろーくるるひとの勸懲ゆ備ふ而已

十

柳煙亭種久作
一惠齋芳幾画

慶應二寅歳新春刊行

女郎花五色石臺
初編より十編迄大尾
曲亭馬琴作
一陽齋豊國画

黄金水大盡盃
爲永春水作 十七編 十八編
一壽齋國貞画

滑稽道中膝栗毛
十編 十一編
十返舍一九作
一筆庵英泉画

風俗淺間嶽
柳下亭種員作 十四編 十五編
一壽齋國貞画

飯盛女
いろは文庫
柳煙亭種久作 九編 十編
壽齋國貞画

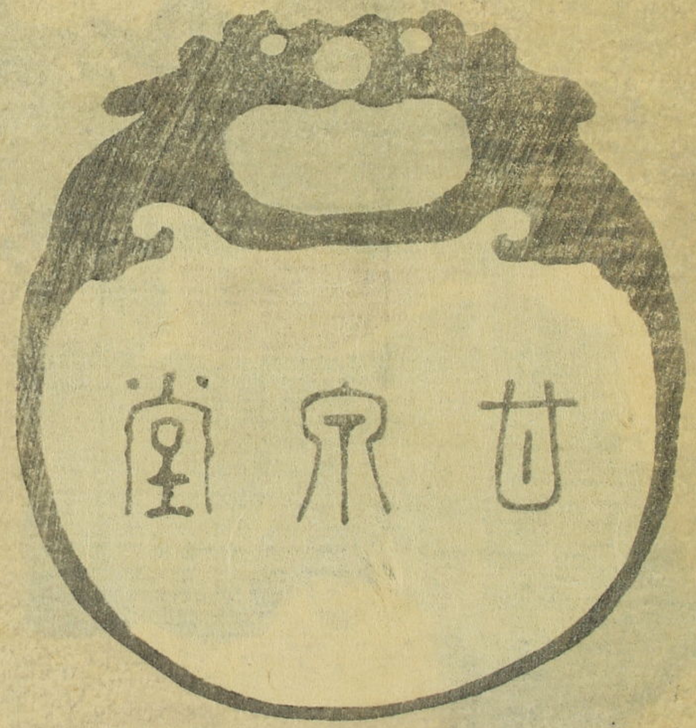
戯名
反古
一休草紙
十六編 十七編
同作 同画

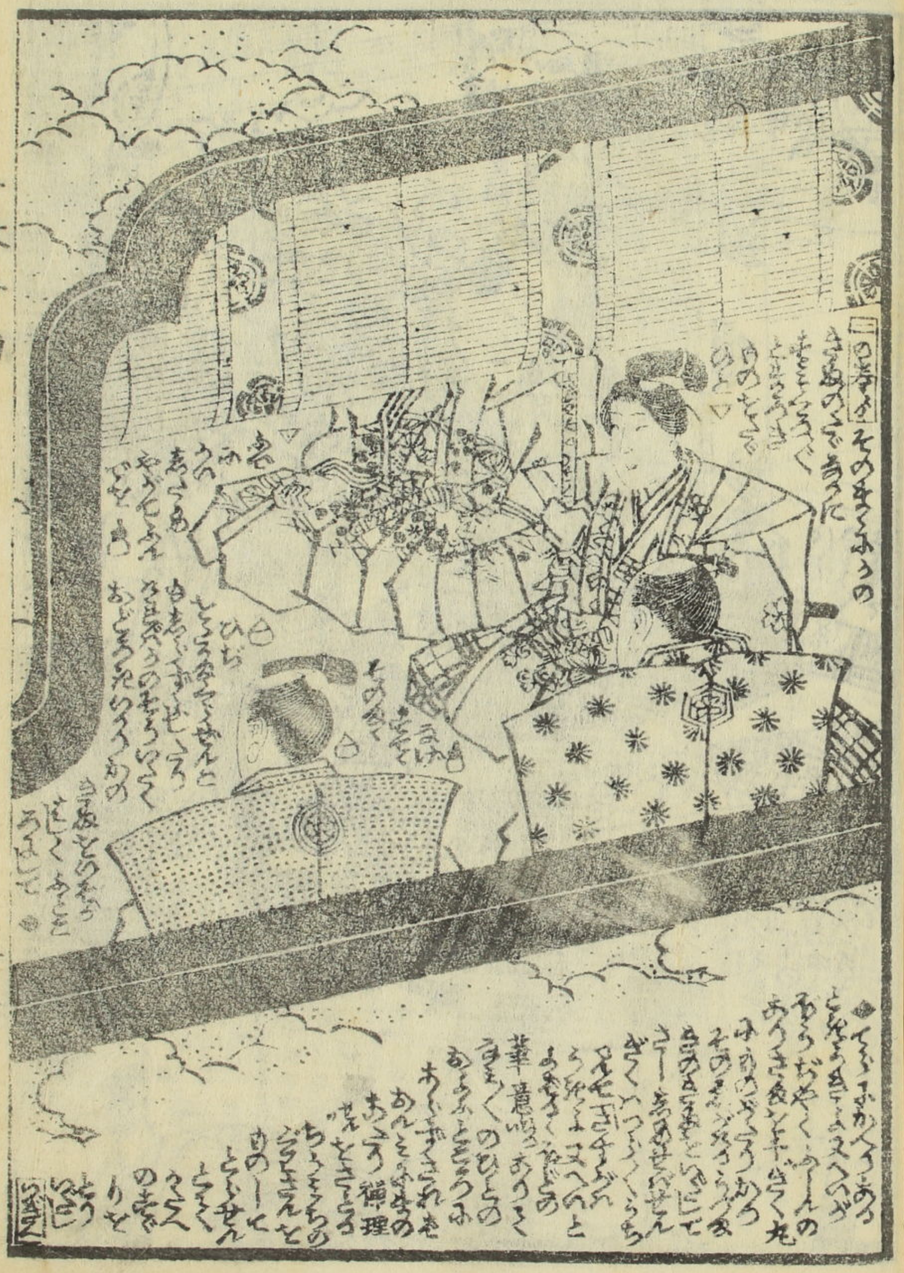
芝神明前
甘泉堂梓

一休
州紙
稚久作
芳藥画
甘泉堂
壽梓

十四編下

かゝ不ゆう
一きうは
今
十四屋ゑ下
種ひさ作
よいく亜





奉加帳

○千ぎく九
青宮の
皇位せ
さみ
ぬくとう
一旦
ぬん緑
せ
ふ
ぐ
色欲

○破戒の浮
名を賀
後巻
の條
抜華
妻ふあり
○せん
納所

慶應二寅歳孟陽發兌

兒雷也豪傑譚 四十三編 柳下亭種員作 四十四編一壽齋國貞画

新編金瓶梅 初編十編迫 曲亭馬琴作 大尾 一陽齋豊國画

不思議塚小説櫻 七編八編 種清作 國貞画

小女郎蜘蛛怨苧環 初編ヨリ 三編迫 大尾 柳亭 琴調 一勇斎玉蕚画

櫻茵花園守 之巻み切 種久作 蒼虎画

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

假名反古

一休草帋

十四編